



# ALPS CAREER

<シリーズ連載：今求められるキャリア開発 第29回>

## 勉強嫌いな私の挑戦 通信制大学体験記

はつぶり

いざこの文章を書き始めてみると、もう一五年も前のことなので忘れていたことも多く、原稿作成には難航しました。とにかく私の薄らいだ記憶の破片をひとつひとつ紡ぎ出すことから作業を始めました。もしかしたら間違っている情報や、現在とは異なった部分があるかもしれません。そのところはどうかご容赦ください。細かい部分は別として、気楽にお読みくだされば幸いです。

平成三年四月から平成七年三月までの丸四年間、高校を卒業したばかりの私は群馬県職員として働きながら、夜は夜間学校に通い、中央大学法学部の通信教育課程の単位も取得するという、いわ

ば勤労学生生活を経験しました。こう言いますと大概の方は「それは大変な苦勞をされましたね」とおっしゃいます。でも自分自身はそれほど大変だとは思っていませんでした。なにしろ若かったし体力もみなぎっていました。入学したのは一九歳ですからね。何も怖くない年頃です。

そして、当時の職場が我々のような立場の職員に対してとても理解を示し、協力的でした。当時はまだまだ労働環境に余裕がありました。しかし現在、全国のほとんどの地方公務員の現場は、人員削減が進み、ギリギリの状態だと思えます。私自身も現在のシビアな労働環境で、同じように仕事と勉強の両立をはかることができるかと問われれば、全く自信があ



東堂 玄幸

群馬県総務部総務事務センター主任

【とうどう はるゆき】昭和46年群馬県渋川市生まれ。県立渋川高校卒業後、平成2年群馬県入庁。県税の徴収事務に携わりながら、平成3年群馬法律専門学校夜間部へ入学。平成7年中央大学法学部学位取得。その後文化振興、母子福祉、地域振興などの部署を経て、現在に至る。平成20～21年度には(財)地方公務員等ライフプラン協会への派遣研修も経験。趣味はロックバンドでギターを弾くこと。家族は妻と5歳の娘1人。

りませんし、同じような希望をもつ後輩がいたとしても、助けてやれるかどうか保証もできません。本当に私は運が良かったのです。

### 中学～高校時代の私 || 優等生から落第生へ

まず最初に、県庁に就職する前、私の置かれていた状況から触れていきたいと思えます。

中学生までの私は本当に成績が良かったのです。自分で言うのも何ですが、勉強が解らないという友達の気持ちなど全く理解できませんでした。さぞかし勉強していたのだろうと思われるでしょうが、答えはNOです。勉強しなくても理解で

きたんでしょね。真面目な性格でしたから授業はしっかり受けて、宿題や多少のテスト勉強はしていました。でもそれ以上のことは何もしていませんでした。

私は成績優秀のまま、地元の進学校にすんなりと入学します。そしてそれからも当然のごとく、私は良好な成績で大学へ進学するのだらうと思っていました。でもそれが大きな間違いの一步でした。

高校に入学しても同じような調子で、勉強はあまりしませんでした。ラグビー部に所属し、毎日ヘトヘトになって泥まみれの青春を過ごしました。一年ほど経過し、気が付いたら授業の中身が全く理解できなくなっていました。考えてみれば県内各地からそれなりに優秀な成績をもつ生徒が集まるのです。当然、中学の頃のようにはいきません。しかもみな進学を目標に真面目に勉強していたのですね。勉強しない私はあつという間に坂を転げ落ち、下位集団へと落ち込みました。



生まれて初めて挫折を味わいました。授業が理解できないので、勉強も嫌になりました。そんな具合で、成績は一向に改善しないまま、高校三年生になり、受験シーズンへと突入していきました。

私は男三人兄弟の長男でした。兄弟三人分の将来にかかる進学費用は相当大変なのだろうということは、子供心になんとなく想像できました。なので自分の大学受験が失敗したら、浪人はせずに就職しようと思っていました。

今思えば、私が浪人したいと言えば、両親は浪人をさせてくれたでしょうけど。それに大学へ行けばまた嫌いな勉強をしなければなりません。華やかなキャンパスライフには憧れをもっていました。浪人してまで苦勞し、親に迷惑をかけて勉強したいとも思っていませんでした。第一、肝心の成績が一向に向上しないため、合格する自信が全くありません。

そんな私は、先生の勧めもあり、大学受験を失敗した場合の滑り止めとして公務員試験を受けてみることにしました。郵政と警察、そして県職員の初級採用試験です。同級生もそれぞれ何人かず、同じ公務員試験を受けていました。郵政は私も含めかなりの人数が合格しました。警察は三人受験しましたが、といううわげか私だけが不合格でした。

そして県の試験は一〇人程受験し、合格したのはなんと私だけでした。これに

は家族も大いに喜んでくれました。この結果に気をよくした私は、「よし、これで大学を受けるだけ受けてみて、ダメなら公務員になろう」と決断しました。結局、大学は三つ受験しましたが全てダメ。群馬県職員として就職することになりました。こういう経緯で私は公務員になったのです。

よく「〇〇県が好きだから」とか「人の役に立ちたい」とか高い理想に燃える新規採用職員のコメントを耳にしますが、当時の私にそんなものは一切ありませんでした。私が公務員になった本当の理由は「浪人して両親を困らせたくない」「もう勉強はしたくない」「安定している」ということです。公務員としてどうありたいのかという心構えのようなものは、社会人になってからの様々な経験や仕事の積み重ねの中で培ってきたのが本音です。そして本当に勉強の大切さを知ることになるのも社会人になってからのことでした。

**就職して気づいた勉強の必要性  
|| 勤労学生への道**

平成二年、群馬県に入庁して最初の仕事は、県税徴収でした。地域機関の県税事務所で滞納整理をすることが私に与えられた仕事です。右も左も解らない私に周りの先輩方は親切に仕事を教えて

くださいました。一方、私の仲の良かった友達は、大学受験に成功し、東京へ出ていきました。不思議なもので、大学生になった友達と話をしているうちに、「自分もちょっと勉強したいな」と思うようになってきました。隣の芝は青く見える…でも言うのでしょうか、まったく単純なものです。割り切って就職したつもりでしたが、耳に聞く華やかな大学生活がうらやましく思えました。

公務員としての仕事面においては、職場の上司から国税徴収法を読んで勉強するようによく言われたのですが、法律というものを全く読んだことのない私には理解できず、苦勞していました。また勉強からの逃げ癖もついていたのでしよう。どうにも身が入らず、上司から厳しく叱られたことが何度かありました。

一方、同じ県の技術職員であった父親は私に法律専門学校への入学を勧めていました。高校を卒業して県に入った職員も多くは前橋にある群馬法律専門学校の間部部に入學するのだということでした。そしてここでは中央大学の単位も取得でき、必要な単位を満たせば大学卒業資格も得られる、というものでした。最初は「もう勉強はうんざりだ」と思っていたのですが、華やかな大学生活をおくる友人の影響もあり、また、税法が理解できずに上司にも叱られ、仕事にも影響が出始めているということから、翌年の

四月から入学してみようかと思い始めるようになりました。

まず直属の係長に相談をしたところ、すぐに所属長に取り次いでくれました。父が話していたように、群馬県では昔から法律専門学校の夜間部に入る職員が多いらしく、下地が出来上がっているようでした。ありがたいことに所属長は「それは良いことだからがんばりなさい」と、すんなり認めて、推薦状も書いてくださいました。同じ職場の先輩方にも、法律専門学校の卒業生だという方がいらつしやいました。群馬県内の公務員の世界では、そのくらいこの学校への入学はポピュラーな話のようでした。

年も明けた頃でしょうか、私は群馬法律専門学校へ願書を提出し、入学手続をとりました。入学試験はよく覚えていないのですが、なかつたように思います。おそらく広く社会人に門戸を開いている通信教育と連携しているためと思われるのです。こうして私の勤労学生生活が始まったのです。

### 法律専門学校とはどんな学校なのか

ここまで書いておいて、今さら言いづらいことなのですが、群馬法律専門学校はもう存在していません。実は私も知らなかつたのです。この原稿を書くにあたり、インターネット等で調べた結果、こ

の驚愕の事実を知ることになりました。ただ同様のシステムをとる学校が仙台と名古屋にまだ存在していることが解りました。詳しくは中央大学法学部通信教育課程のホームページをご覧ください (<http://www.tsukyo.chuo-u.ac.jp/correspondence/>)。

当時、群馬法律専門学校は中央大学法学部通信教育課程の提携校になっていました。通常の通信教育は、一科目につき四課題分のレポートを提出し、合格する必要があります。しかし提携校の場合は、実際に専門学校の教室で授業を受け、定期テストに合格することで課題合格とみなされるのです。確か定期テスト一回合格でレポート二通分でした。もちろん授業で使用する教科書は中大通信教育課程のものを使用します。全て自力で勉強しなければならぬ通信教育と比べ、実際に教室で授業が受けられることは大きな利点だと言えます。

ただしこれで終わりではありません。単位修得には、最終的に中央大学が主催する科目テストに合格する必要があります。レポート四通合格(提携校では定期テスト二回合格)で初めて科目テストの受験資格が与えられます。テストは全国各地で定期的の実施されるほか、夏期に行われるスクーリングへ参加することも受験できます。これは実際に東京の多摩にある大学のキャンパスへ通い、教授から



当時の勤務先で

スクーリングでの仲間と  
(写真中央が筆者)



直接講義を受講することで、レポート二  
通分提出（提携校の定期テスト一回分）  
と見なされ、最後にテストを受けて合格  
することで単位を修得するものです。

スクーリングは午前と午後それぞれ  
一科目ずつ、月曜から土曜まで集中的に  
講義を受けます。そして最後の日曜がテ  
ストです。最大四週間、八科目を受講  
できます。非常に厳しい日程ですが集中  
して単位を修得できる大きなチャンスで  
もあります。実際の講義を受けてからの  
テストですので、傾向と対策もはつきり  
しやすく、合格もしやすいと言えるでし  
ょう。

主要な法律科目の場合、一科目四単

位です。一部教養科目には二単位のも  
のがあります。最終的に中央大学の卒業  
資格を得るには一三一単位の履修を必要  
とします。

それから肝心の学費について触れて  
おきます。通常、大学は費用が何十万、  
何百万円とかかりますね。しかし通信教  
育は広く社会人に門戸を開いているため  
かとても安価です。確か一年で一五万円  
程度だったような気がします。私の場合  
就職して一年経っていましたので、ある  
程度の蓄えがありました。ですから法律  
専門学校時代の四年間は全て自分の給  
料で学費を賄うことができました。両親  
にしてみればこれは大助かりだったでし  
ょう。そして卒業すれば普通の大学生と  
全く同じ「中央大学法学士」になります。  
卒業証書も全く同じです。

世の中には受験勉強もなくお金もかけ  
ずに大学に入る方法があるので。皆さ  
んご存じでしたか？

#### 四年間の学生生活

群馬法律専門学校は最終的に中央大  
学への編入学を目指す二年制の昼間部  
と、純粹に通信教育課程の単位修得を  
目指す四年制の夜間部がありました。私  
の入学した夜間部には公務員をはじめ  
様々な職種の社会人が集まっています。  
社会人学生はみな目標をもって入学して

いるためか、授業に対する集中度も高い  
ように感じました。

授業は六時から九時までの三時間二コ  
マです。毎日仕事を定時で終わりにさせ  
てもらい、すぐ車で前橋へ向かい、授業  
に出席しました。学生同士の連帯感も強  
く、テストが近くなると講義終了後に近  
くのファミリールレストランへ入り、みな  
で食事とコーヒーをとりながらよく勉強  
し合いました。そんな具合で帰宅が深夜  
になることもしばしばでした。

私自身は、通学にあたっては勤務先か  
らかなりの配慮をしていたらいているこ  
とを強く感じており、しっかりと成果を  
出さないといけないとも思っていました。  
また、一旦あきらめたはずの学生生活を  
再び経験できる喜びに満ちあふれ、楽し  
くて仕方ありませんでした。とにかくこ  
の四年間は今まで一番勉強をした時代で  
もありました。

前述のように、スクーリングへの参加  
は単位を集中して履修することのできる  
最大のチャンスです。私は幸せなことに  
職場から最大限の配慮をいただき、七月  
中旬から八月中旬までの四週間、夏期  
休暇と有給休暇をフル活用し参加するこ  
とができました。八王子近辺にホテルを  
とり、大学のキャンパスへ通うのです。  
宿泊費と生活費、受講料を合わせると  
結構な負担になります。もちろん旅費や  
補助金など出るはずもなく、自分の給料



中央大学の卒業式。ともに卒業を果たした法律専門学校の仲間との1枚（写真前列中央が筆者）

と貯金でやりくりをしました。ここでも入庁後一年間の蓄えがあつたことで随分と助かりました。

地元を離れ、仲間とともに臨んだ一ヶ月のスクーリングはとても充実していたと思います。普段の勤労学生生活のときよりも、この一ヶ月はさらに勉強に励みました。月曜から土曜の日中は講義、夜は予習復習、そして日曜に科目テストですから、遊んでいる暇はないのです。これも専門学校仲間同士で集まって試験対策を練ったり、解らないところは教え

合い、厳しい毎日を過ごしました。

唯一、三週間目の科目だけは土曜日の講義終了後に科目テストが行われ、翌日の日曜日が休日でした。この日は車に乗り合わせて湘南方面にドライブへ行ったり、都内を見物したりと、気晴らしをすることができました。勉強も大いにしましたが、広い大学のキャンパスへ通い、安くてボリュームのある学食を楽しみ、学生生協で買い物をしてみると、それなりの学生気分も味わうことができました。

これだけ集中した毎日を過ごしていると、四週間というのは本当に短いと感じます。甲子園がテレビで始まると、ああスクーリングももう最終週だなと思ったものです。二〇歳前後という人生で一番活気に満ちあふれた時代の夏の想い出は、私の場合、中央大学とともにあったと言えるでしょう。

全ての履修単位をスクーリングで賄うことは不可能です。やはり定期テストを二回受け、通常の科目試験を受けて単位をとった科目もいくつかあります。なかでも最高の難所だったのが、忘れもしない三年次の刑事訴訟法でした。

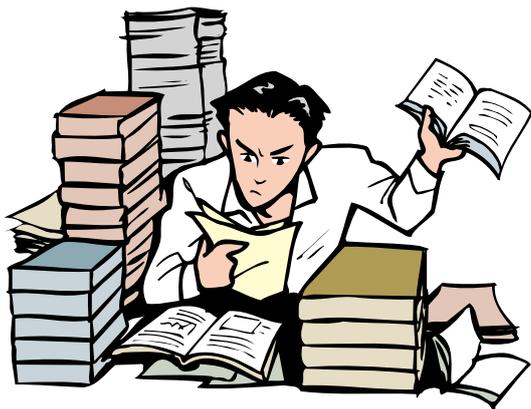
担当教授の渥美東洋先生は厳しいことで有名で、スクーリングで刑事訴訟法を選択してもなかなか合格できないという評判でした。私は、スクーリングでは確実に単位をとっておきたい他の科目を

充て、合格率の低い刑事訴訟法は科目テストに回して勝負することにしました。同じような選択をした仲間も何人かいましたので、仲間同士で特訓をすることにしました。渥美先生の学説やテストの傾向などをよく調査し、徹夜して試験に臨んだ結果、最低ランクのC評価でギリギリ合格することができました。三年次はこの他にも重要な科目が多く、濃密で一番大変な時期でした。

そんな具合に、私としては順調に単位を修得しつつ、最後の四年次を迎えました。四年になると履修科目も随分と減ってきます。法律専門学校の授業も一日一科目で済んだり、授業のない日もできたりしました。スクーリングも三週間で済ませることができました。

ただ、四年次には卒業論文を提出するという大きな課題がありました。卒論ばかりは仲間同士で対策を練るわけにもいかず、自力で資料を集め、準備を進めなければなりません。私は実家が商売をしていたこともあり、商法を選択しました。資料を集めるために、車を運転して八王子の大学まで何度も通いました。

中央大学の図書館には豊富な資料が用意されています。関係ありそうな文献は全て収集し、コッコツと論文にまとめ上げました。原稿用紙五〇枚くらいに納めたでしょうか、期限までに大学へ提出することができました。そして最後に担



### 卒業後〜私の中に培われたもの

当教授と面接をします。これが卒業への最終試験です。教授からの質問には緊張してうまく受け答えすることができませんでしたが、結果はB判定で合格でした。平成七年三月、中央大学の卒業式に出席することになりました。卒業式は一般の大学生と同じ会場で行われます。苦楽を共にした法律専門学校の仲間も多数出席しました。勉強嫌いだつた私が一転、真剣に勉強に取り組み、学士号まで頂くことができたのです。心から勉強して良かったと思えた瞬間でした。

勤労学生生活を通して得た、仕事に直接関わる大きな利点としては、法律的な物の考え方が身に付いたことです。夜

に学んだことが昼間の仕事でダイレクトに結びつくのです。おかげで全く理解できなかった関係法令も難なく読みこなすことができるようになりました。その後どこの所属へ異動しても、法学の知識が役に立っています。

また、この四年間の経験が受験に失敗したという挫折感から私を立ち直らせてくれました。カリキュラムの内容は全日制の法律学科と同じ教科書を使い、同じレベルの勉強をします。全日制の大学生以上に勉強したという自負があります。そして自分の給料で学費を賄い、親の負担を軽減できたという想いがあります。もちろん両親には生活面でそれ以上に助けられているのですが。

そして、本当に大事なと思ったことは、仲間の存在です。苦しいはずの勉強も、同じ目標をもつ仲間と共に、支え合いながら楽しく進めることができました。そして平均的な通信教育課程が卒業までに六年から八年かかると言われるところ、最短の四年で卒業をすることができました。これは仲間の存在はもちろん、法律専門学校という中央大学の提携校システムによるところが大きいでしょう。

もし同じような通信教育の希望をもたれている方で、住まいの近くに提携校があるなら活用すべきです。そして一般の通信教育についても、地域ごとに学生同士で集まって勉強会や情報交換会が開か

れています。一人でやろうとせず、積極的に仲間同士で交流をはかることが卒業への近道になります。

最後に、もし高校を卒業して公務員になつたばかりの若い皆さんが、この文章を読んで少しでも興味をもつたならば、ぜひ臆することなくチャレンジしてほしいと思います。高い志よりも大切なのはほんの少しの好奇心です。その好奇心があなたの未来を大きく広げてくれます。

それから仕事と勉強の両立を成功させるには、本人のやる気以上に、職場からどれだけ配慮をしていただけかが大切です。もし現在の勤務先が非常に忙しいのであれば、率直に通信教育との両立が可能な所属への異動を希望するなど、遠慮せずに上司に働きかけるべきです。本人のキャリアアップにつながるのであれば、人事部門は話を聞いてくれるはずです。

私は人事面接において「卒業するまでは異動させないでほしい」と所属長に希望を出していました。新しい所属で、同じように学校へ毎日通わせてもらえるような配慮をしていただけるかは解りませんが、そういう状況を一から作り上げることはとても大変なことだからです。当時の所属はその希望をかなえてくれました。本当にありがたいことです。そして今の地方公務員としての自分があるのだと感じるのです。